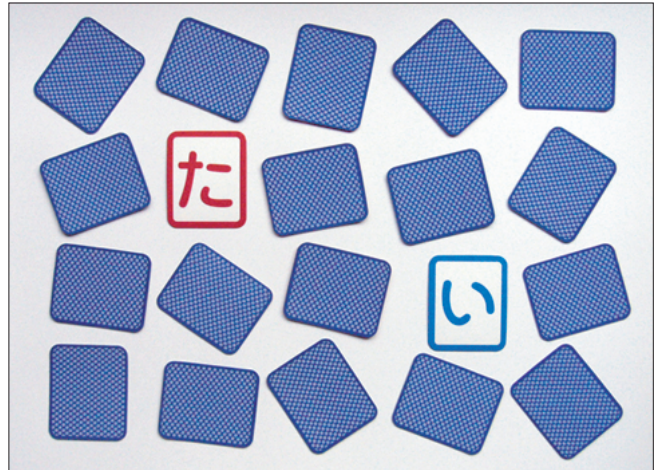


あいうえおカード 言葉神経衰弱 遊び方詳細

あいうえおカードを裏向きに並べておき、カードを2枚表向きにして、開いたカードが言葉になっていれば取ることができ、言葉にならなければ元に裏返しておくという遊びです。

1. 準備とルール

- 1) 5～6人で机を囲んでください。
(畳の上で輪になってください)
- 2) カードを裏向きにしてランダムに並べます。
- 3) はじめは2枚を開くことにより、2語の言葉作りをします。
 - ・開いた順序は関係なく、開いた2枚で言葉になっていれば取れます。
 - (慣れてくれば、何枚開いても言葉になっていれば、取れるというルールでやっても良いでしょう。その場合、開いたカード全てを使って、言葉にならなければなりません)



- 4) 『ぬ』、『糸』、『を』は、『い』、『え』、『お』に読み替えて言葉にします。
- 5) 清音を濁音(がざだば)や、半濁音(ぱぴぷぺぽ)に読み替えて言葉にしても結構です。
- 6) 右上図の場合、「鯛」と読んでも、「板」と読んでも、「台」と読んでも取れます。 ・ ・

2. 遊び方

- 1) じゃんけんをして、一番、勝った人から時計回りで進めます。
- 2) じゃんけんで一番勝った人が、カードを2枚開きます。言葉になっていればそのカードを貰い、言葉にならなければ、開かれた位置で、裏返して置きます。
- 3) 開いたカードが言葉になっていれば、続けて何回でもできます。
- 4) 他の人は、開かれたカードを良く見て文字とその位置を覚えておき、次の人に回ります。
- 5) 言葉になっているか否かは、開いた人が判断し、他の人はできるだけ黙っていることとします。
- 6) うまく取るには
 - ①開かれたけれど言葉にならず取られなかったカードの文字の位置を覚えておき、それらの中から2枚のカードを結び付けて、自分の順番が来た時に、言葉になるようにして開いて取るか、
 - ②今までに開かれていないカードや、覚えられなかったカードを先に開き、これと結びつけると言葉になるようなカードを、それ迄に開かれたカードの中から思い出して開けば良いです。
- 7) 何も考えずに、ただ2枚を開くというやり方では、脳刺激になりませんが、開かれたカードを憶えておれない場合は、開いたカードが言葉になっているか否かに神経集中して取ります。
- 8) 終わりのほうになりカードが少なくなると、言葉に出来るかどうか判らなくなりますので、残ったカードを一気に表向けにして、言葉になると気付いた人が我先に取ることでゲームを終えます。

3. 遊びの効果として、ねらったこと

- 1) 開かれたカードについて、どんな文字が、どこの位置にあったかを覚えておいて、言葉を作りカードを取ることで、言葉の記録、想起力を強化するとともに、左・右脳を刺激します。
- 2) 普通の神経衰弱と違って、正解は一つでなく、いくつもの違った言葉を作ることが出来るので、取れるチャンスが多く、左脳と共に、できた言葉に反応し気づくことで前頭葉を刺激します。
- 3) 開かれたカードの文字と位置を覚えておれない場合も、開かれたカードが言葉になっているか否かを、テキパキと判断できるかどうかで、その人の前頭葉のレベルが、少し見えてきます。